



藤井栄一郎 議員
(清明会)

問 防災行政用無線の有効活用を図るべき

毎年、全国各地で自然災害が発生し、災害規模も増大、益々防災に対し関心が高まっている。防災行政用無線の活用が市民への情報伝達手段として益々重要になっている。更なる市民への情報伝達として、白岡まつりや総合防災訓練等の告知に利用できないか伺う。

答 近隣の状況を踏まえ運用を判断していく

防災行政用無線は市内全域に情報を伝達する重要な通信手段であり、防災や防犯に関わる情報だけでなく行政情報も放送するものである。近隣市町の状況を踏まえ、市が実施する事業や多くの市民の参加が見込まれるイベント情報についても活用を検討していく。

問 白岡宮代線早期開通と市道の管理状況は

市の総合振興計画にある、都市計画道路、白岡宮代線の早期開通に向けた取組状況はどのようになっているのか。また、市道路線の危険箇所の把握や雑草等が繁茂した市道の管理状況や市制5周年記念事業で命名した5路線の管理状況について伺う。

答 事業の進展、適正な管理に努める

白岡宮代線は、現在橋脚本体の築造工事を進めている。今後も関係機関と連携し工事の進展に努めていく。市道の除草は業者委託や職員で対応している。道路愛称を定めた5路線については、より市民に愛着を持っていただけるよう道路環境の向上に努めていく。



工事が進む白岡宮代線



渡辺聡一郎 議員
(創政会)

問 学童保育料の値上げについて市の考えは

学童保育料が値上げされるがその理由は。単に受益者負担を増やすだけでなく社会全体で子育てを支援する考えが必要では。消費税増税もあり生活への影響が懸念される。市民の視点に立って制度設計すべきと考えるが、所得や学年による減免等は検討されたのか。

答 受益者負担の点で適正な使用料の負担を

学童の利用希望が増え、待機も発生した。こうしたニーズに対応し、受益者負担の観点から適正な使用料の負担をお願いするという趣旨で、安定した運営を行うための改定である。既存の減免制度で対応可能と判断した。なお、子育て支援として多子減免を採用した。

問 のりあい交通の改善と新交通の検討を

3年度の契約更新に合わせて事業の見直しを行うとのことだが、その要点は何か。特に利便性の向上や契約内容の見直しが必要と考える。また新たな公共交通（小型コミュニティバスや民間・NPOとの協働等）の可能性についても検討を始めるべきではないか。

答 利便性向上に重点を置いた見直しを行う

効率的な契約形態に向け、予約の不成立の解消等、利便性の向上や事業の継続性、安定性を確保した契約にできるよう、内容を引続き検討する。今後の地域公共交通は、「のりあい交通」やさまざまな施策と組み合わせ、市全体の課題として対応していく。



のりあいタクシー